

いのちを刻み
今をしなやかに生き
エンディングを迎える生体実験

牧野 忠康

八組 半田市

拙稿のミッションは、一つ。
牧野忠康の現在・過去・未来の立ち位置を高校同期生に伝えること。平たく言えば、人並みに山谷ありの経緯を辿り、その時々を頑張り、かつ生の刹那を楽しみ、後期高齢期とエンディングに向けて自覚を深めつつある今日この頃、となります。

S・今を慎ましく、

煽(たお)やかに生きる

◆愛知県半田市のマンションに、夫婦二人暮らし。日本福祉大学名誉教授で保健学博士(東京大学)が肩書。20年間余勤めた日本福祉大学や大学院での仕事は、昨年度末でなくなりました。知多半島に住んで20年。馴染んだ惰性で居座り。

◆専ら晴読雨読(晴耕雨読でない!)の暮らし。一生では読み切れない書籍に囲まれて、古本屋のおやじ状態。合間に、散歩ときどきカメラマン。ファインダーを覗いて川や運河沿いを歩く60分。蔵の町半田の風景や草花・野鳥・魚・蟹・虫などの四季を楽しめます。

◆最も時間を費やすのは、インターネットでデジタル版の新聞記事漁り。朝日、毎日、日経は有料購読。読売、中日はデジタル速報版。

地方紙15紙の社説と地域ニュースをフォロワー。見て・読んで・考えて・保存という作業に、なんと5時間も充てています。この習慣は、現役時代の社会福祉方法論や保健福祉学の講義資料・レジュメづくりの延長。しかし、頭は回らず目がクラクラしてきます。認知症予防対策になると信じて、生体実験中。

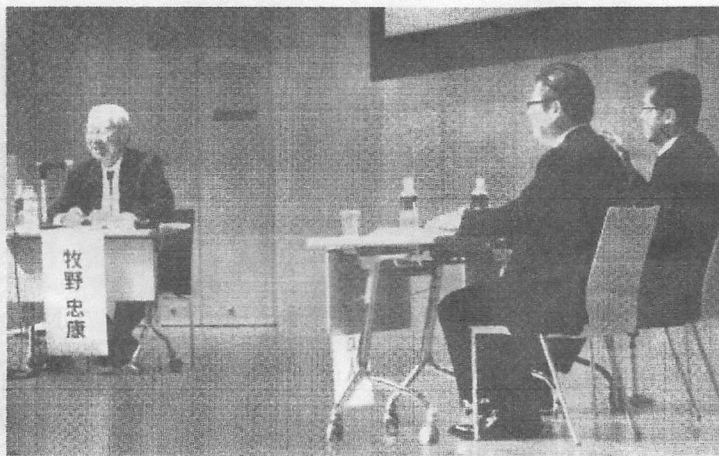
◆研究歴と人脈を生かし、「寺子屋ソフィア・地域包括ケア」の集まりを、我が家で細やかに開いています。日本福祉大学大学院修了生たち10人ほどが、2、3か月に一度集まっています。文字通りの寺子屋。連れ合いの手料理を食べて・飲んで・喋って・笑い転げてのお遊びが専ら。チョッピリお勉強。遊びこそがタフなソーシャル・キャピタル形成のコツだと妄信。地域包括ケアセンターなどのケアマネジャーが多いのです。連れ合いも看護師でケアマネですが、ご馳走でおもてなしをしておけば近い将来に老老介護となっても恩に感じて力を貸してくれるはずと、邪な下心も見え隠れ。同期の皆さん、賞味期限を超えた長寿なので介護対策はしっかり、死亡率100%だから身じまいの準備も喫緊の課題ですよ!

◆介護といえば、新潟の長岡にある介護福祉士養成の専門学校に東海道と上越の新幹線を乗り継ぎ「社会福祉援助技術・演習」の非常勤講師に20年来出かけています。定年退職後のメトロームにな

っています。理事長は「通える限り来て」とは言ってくれているのですが・・・

S・つながる生活史に生かされて

◆今年5月28日に新潟・朱鷺メッセで開催された第64回公益社団法人日本医療社会福祉協会全国大会で師弟鼎談が実現し、嬉しく思っています。かつて長野大学に勤めていた時の遊びと学びの牧野社会福祉専門ゼミOBとの鼎談でした。新潟県医療ソーシャルワーカー協会会長をしているOBが、私を講師に招聘してくれました。



笑顔の師弟鼎談・5月28日

大会長の彼と新潟県臓器移植コーディネーターで活躍している牧野ゼミ一期生OBとでの鼎談。「実演!一生でみる!感じる!人を深めるソーシャルワーク生活史を

聴く模範演技で魅(み)せる自分を知り・他者を知る意味と意義」という私の研究の集大成。立ち見が出て650人を超える聴衆の前での鼎談は、教員冥利に尽きる90分のプログラムでした。

◆その後、5月28、29日に新潟・月岡温泉での長野大牧野ゼミOB・OG会に参加。29日には東京・府中の産科病院で三人目の孫と初顔合わせ(10月に千葉県市川で四人目の孫が誕生予定)、翌30日には津山鶴山ホテルでの東中学校同期会に参加。このハードスケジュールを消化できた体力に乾杯!

◆とはいえ、1991年11月に肺梗塞(エコノミー症候群)で一度は死にました。約100日間のICU・ポストICU暮らしを経て生かされました。今はがんキャリアーですが、これも来年3月には術後5年を迎えます。まさに、今は付録(小学館の雑誌などは付録の方が大きかった!)の人生です。

S・身じまいは穏やかに

◆4か所に分散保管の蔵書整理が最大の課題。「断捨離」を徹底すれば簡単だというが、その勇気がなくてジレンマに悩む日々。

◆文字通り遊学?の期間が長かったのも、連れ合いには苦勞をかけた。夫婦一緒に人生を楽しむ時間と機会の確保が、忘れてはならない私の宿題です。肩書という枠を脱いで、楽に生きることが課題の一つだと考えています。